

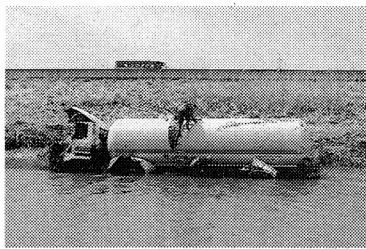
# 3.11あのととき私は

⑩

後藤博さん(石油ガス工事)

タンクローリーを引き上げるための重機を現場に入れるのは困難だった。燃焼させれば満タンなので空になるまで20日程度かかる。

結局、500キ容器に



砂押川にはまっていたタンクローリーの液処理には3日かかった

回収する方法をとることになった。2日間かけて移送作業をした。3日目、水置

だったので中古品を貸してほしい」「発電機を貸してほしい」「車を流されたのでリフト車を貸してほしい」「バルクローリーでガスを受け入れたいのでカップリングを貸してほしい」  
対応し切れないほどのガソリンはまとめ買い  
きない社員が出てきそうになった。LPG車での相乗り通勤対策を検討した。同時に、こうした状況が長期間続くことも考え、会社の近所に社員の仮住まいのアパート探しを始めた。  
3〜4時には起床した。社内連絡は5時に行った。仕事相手に対しても6時には電話を入れた。朝早くから行動しないと処理できないためだ。また、朝の方が電話がつながりやすかったからだ。  
嵐の中のような日々は9〜10月まで続いた。この間、地震と津波の被害を受けたタンクの処置件数は、充填所やオートガ

嵐の様な日々

## 続々届いたSOS

### 従業員や周囲の信頼で乗り切る

た。干潮の水深の浅い朝一番の時間に作業をした。胴長を身に着けて作業した。土手の上に500キ容器を数本用意し、液移送したも

依頼数だった。しかし、それぞれの現場は切迫していた。一つひとつ対応することができ、遠隔地に行

ススタンド11カ所、タンクローリー20台、バルク貯槽は15基に上る。

「ストレージタンクが流された」「バルク貯槽が流された」「浸水しモーターが絶縁不良になっ

「浸水でエアコンプレッサーが使用不能にな

「あの時期を乗り切ることができたのは、なにより従業員のおかげ。それと事業者や協力事業者増やし2台にした。ガスとの信頼があったから」

これを何度も繰り返し

燃料不足のため通勤での移送回収要請がひっきり

(終わり)